

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO.26 2008年3月14日

目 次

| | | | |
|--------------------|---|----------------|----|
| 第8回総会のお知らせ | 1 | 委員会・作業部会 | 8 |
| 第四次千葉県障害者計画の策定に | | 施設紹介 | 9 |
| 関して意見書を提出 | 1 | 臨床こぼれ話 | 10 |
| 研修会参加費徴収 | 2 | 理事会等報告 | 11 |
| 日本言語聴覚士協会お知らせ..... | 2 | 事務局 | 13 |
| 学術局 | 3 | 求人情報 | 15 |
| 私の地域勉強会 | 7 | | |

第8回総会のお知らせ

千葉県言語聴覚士会 第8回総会・平成20年度第1回研修会を5月11日(日)に開催いたします。会員・会友数が300名を超え、会員のニーズにあった活動をさらに充実させていくとともに、それを支える組織の見直しが必要な時期にきています。総会は今後の県士会活動の方向性を決める重要な場ですので、ご出席いただきますようお願いいたします。

また、総会の後には第1回研修会も開催されます。今回は「ことばとコミュニケーション～人と人をつなぐ言語聴覚士の役割～」がテーマです。貴重なお話が聞けるチャンスですので、皆様お誘い合わせの上ご参加くださいますようお願いいたします。

日時：平成20年5月11日(日)

13:00～14:00 千葉県言語聴覚士会 第8回総会

14:15～17:30 平成20年度 第1回研修会

場所：千葉大学医学部附属病院

「第四次千葉県障害者計画の策定」に関して意見書を提出

当会では、昨年11月4日にミニタウンミーティングを開催し、千葉県健康福祉部健康福祉政策課及び健康づくり支援課に対して「『健康・医療・福祉の現状と将来、運動の必要性について』に関する千葉県言語聴覚士会からの意見」(ホームページに掲載中)を提出いたしました。

その後12月に健康福祉部障害福祉課より「(仮称)第四次千葉県障害者計画の策定」に関する意見を求められ、意見書を提出しましたので、ご報告いたします。意見書の骨子は以下の通りです。

千葉県言語聴覚士会からの提案骨子 (詳細はホームページに掲載中)

- (1) 各地に十分な施設と職員を配置して、障害児・者が適切な時期に必要な支援を受けられる権利の保障。非採算部門にも配置が可能になるような対策を。

- (2) 学校を卒業した障害児や、外傷や変性疾患などによる若年の障害者が、学校や医療機関の外で適切な支援を受けられる施設の整備。
- (3) 就労支援の対象を身体障害者手帳が取得できなかった軽度障害者、介護保険対象者まで拡大して言語聴覚障害者の雇用の支援。
- (4) 介護予防事業に、身体障害者手帳が取得できなかった、または要支援にも認定されなかった軽度言語聴覚障害者も参加できるように。
- (5) 地域ごとの特性に合わせた施策作りが可能になるように、各自治体または医療圏の主たる自治体における言語聴覚士の正規職員としての雇用を促進。
- (6) 当事者団体「友の会」「親の会」への支援。
- (7) 言語聴覚障害者への情報保障の充実。ことばのバリアフリーの推進。
- (8) 県立医療保健大学に言語聴覚学科を設置。

研修会参加費徴収に関するお願い

千葉県言語聴覚士会では、会員の資質の向上、言語聴覚士の社会的地位の確立、及び地域社会における保健・医療・福祉・教育の発展と充実に寄与するという会の目的達成のために、様々な活動を実施しておりますが、資金面の不足から、十分な活動が展開できない状況です。今後も会員と地域社会の皆様により良いサービスを提供するために、平成20年度より、研修会に参加される皆様から資料代として参加費500円を徴収することにいたしました。どうか事情をご理解いただき、ご協力いただけますようお願いいたします。

日本言語聴覚士協会からのお知らせ

【平成20年度診療報酬改定に関する情報について】

診療報酬改定については、日本言語聴覚士協会からの情報をホームページの会員専用ページに掲載いたしますので、ご覧ください。また下記のホームページにも掲載されておりますので、ご案内いたします。

| | |
|-----------------|---|
| 厚生労働省ホームページ | http://www.mhlw.go.jp/ |
| WAM NET (ワムネット) | http://www.wam.go.jp/ |
| 日本言語聴覚士協会 | http://www.jas1ht.gr.jp/ |

【第9回日本言語聴覚学会 事前登録に関するお願い】

6月21、22日に開催される第9回日本言語聴覚学会では、学会参加の事前登録を実施しています。これは学会当日の朝の受付業務を簡素化し、参加者の負担を軽減することを目的としています。多くの方が事前登録に協力されますようお願いいたします。

事前登録は、学会ホームページ上から行うことができ、当日参加費10,000円が9,500円になります。また、ランチョンセミナー（昼食、飲み物付き、参加費無料）は、事前登録でのみ申し込むことができます。

事前登録ホームページ <http://square.umin.ac.jp/jas9th/>

学術局から

1. 第1回研修会のお知らせ

今回は言語聴覚士の中川信子先生の講演会です。中川先生は、リハビリテーション分野では最先端の一つである神奈川県総合リハビリテーションセンターで成人の失語症などの臨床に携わり、現在は小児のこことばの育ちの臨床や言語聴覚士のネットワークづくりを行っていらっしゃいます。

ぜひ多くの皆様の参加をお待ちしております。また、講師の先生を囲んで情報交換会も行います。

*日時：平成20年5月11日(日) 14時15分～17時30分

*会場：千葉大学医学部附属病院 3階 講堂

*内容： . 講演会 [14:15～16:15]

演題「ことばとコミュニケーション～人と人をつなぐ言語聴覚士の役割～」

講師 子どもの発達支援を考えるSTの会、NPO法人ことのはサポート

言語聴覚士 中川 信子 先生

. 情報交換会 [16:30～17:30]

皆さんぜひお気軽にご参加ください。

*参加費：500円

*申し込み：同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。

2. 平成19年度 第4回研修会報告

平成20年1月27日(日)千葉大学医学部附属病院にて平成19年度第4回研修会を開催しました。今回は小児と成人の症例検討会及び講演会でした。

小児分科会は「聴覚障害児」と「発達障害児」でした。成人分科会は「摂食嚥下障害」の症例検討と講演会を行いました。

参加者は87名(うち会員68名、会員外19名)でした。研修会の概要と、当日行ったアンケートの結果の一部を紹介します。

<研修会の概要>

小児

発表1：病院での中等度難聴児指導

～発話意欲が低下し、やり取りの少ない児への指導の報告～

発表者：小張総合病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 佐藤 真紀

助言者：筑波大学特別支援教育研究センター 教諭 庄司 和史

精査医療機関の言語聴覚士の立場から、中等度難聴児への指導の紹介がありました。症例を再評価した上で、セラピストの問題点を挙げ、それを改善した指導内容をVTRと資料で報告されました。症例とセラピストの関係が良好になり、発話意欲が改善される様子のわかりやすい説明がありました。また、助言者からは発表症例の理論的な説明があり、聴覚障害児の特徴やことばが定着するまでの段階などの説明がありました。

発表2：通常学級に在籍する発達障害児の指導

～より良い学校生活を目指してソーシャルスキルを身につけるためのアドバイス～

発表者：印西市立木刈小学校 教諭 深澤 朱美

助言者：八街市立実住小学校 教諭 勝田 真至

通常学級に在籍する発達障害児に対し特別支援学級（以下、特学）担任の立場で行っている支援内容の詳しい説明がありました。特学担任として通常学級の担任への指導や支援のポイントを明確にしなが
ら、症例が通常学級で学習しやすく、他児と上手にかかわるための配慮やトラブルの回避方法をさりげ
なく指導している報告がありました。助言者からは学校で発達障害児への対応が異なることの説明があ
り、学級運営アドバイザーとして現在の学校の問題、児童の特徴、それをどのように支えるかのわかり
やすい説明がありました。

成人

発表1：仮性球麻痺患者へのチームアプローチ

発表者：千葉中央メディカルセンター 言語聴覚士 佐野 基

助言者：国立病院機構千葉東病院 歯科医長 大塚 義顕

訓練開始時、経口摂取困難であった患者がお楽しみ程度のゼリー摂取に至るまでの評価・訓練につ
いて具体的な報告がありました。特に、経口摂取に向けた口腔内環境整備に対しては、初期から多職種や
患者家族と協力してアプローチしていくことが嚥下機能の改善に重要であることが示されました。助言
者からは、本症例に対する幾つかの訓練法についてアドバイスがありました。

発表2：脳幹部梗塞における嚥下障害の機能評価と訓練

発表者：大野中央病院 言語聴覚士 田山 明香

助言者：国立病院機構千葉東病院 歯科医長 大塚 義顕

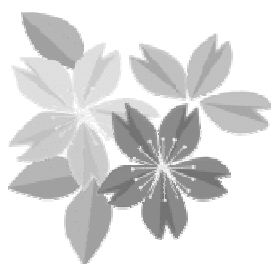
脳幹部梗塞症例について、初回評価時からミキサー食で3食経口摂取に至るまでの訓練経過につ
いて詳細な報告がありました。助言者からは、本症例に実施した評価や嚥下造影画像を見る際のポイント、
及び検査結果から得た問題点に対する訓練法についての具体的な説明がありました。

講演：脳神経疾患患者の摂食・嚥下リハビリテーションの実際

～脳梗塞やくも膜下出血、神経難病の在宅患者様の評価の仕方やアプローチの流れ～

講師：国立病院機構千葉東病院 歯科医長 大塚 義顕

「食は命なり、命は食なり」という、ある患者様のことばの紹介に始まり、嚥下造影検査をする前に
実施すべき評価として、スクリーニング検査について具体的な説明がありました。スクリーニング検査
は特別な器具を用いず在宅患者に対しても実施可能で、問診、患者や介護者の心理・行動観察、
摂食・嚥下障害に関する症状の把握（身体所見、局所所見、栄養状態）などと併せて総合的に判断する
ことにより、適切なアプローチの方向付けが可能であることを再認識できました。また、疾患別に症例
を通した訓練法の具体的な紹介もありました。



アンケート結果

小児 回答者 15 名

<研修会に参加していかがでしたか？>

とても良かった 14 名、 普通 0 名、 期待していた内容と異なった 1 名

<具体的に>

- ・ 学校現状、とりわけ通常学級に在籍する発達障害児の現状や、指導を知ることができ、大変良かった。
- ・ 難聴幼児の指導や、中等度難聴の難しさが少しわかりました。
- ・ 支援をする人数の余裕のない学校でも“特別支援”がされていることが分かり、すごいと思った。

<研修会の感想>

- ・ 大変わかりやすく、学校の現状が詳しく知れて良かったです。また、学校と S T の連携のためにも、学校側の状況を知ることや学校の先生と S T との交流・情報交換が大事だと思いました。
- ・ 助言者の先生が丁寧に具体的な問題や現状、改善策を話したことが良かった。
- ・ ピアサポートの話、大変参考になりました。日頃 S S T の指導が「理解」に偏っていることを痛感しました。ピアサポートについて、もっと詳しく知りたいと思いました。
- ・ 聴覚障害の症例が少なく指導方法など勉強不足な面があるのでとても役に立ちました。

<情報交換会>

- ・ 幼児から中学までの子どもの情報が行き来して、大変参考になった。

<今後の研修会・県士会についての意見>

- ・ 成人と小児の両方に出たいときに、併行で行われていると困ります。

成人 回答者 35 名

<研修会に参加していかがでしたか？>

とても良かった 29 名、 普通 6 名、 期待していた内容と異なった 0 名

<具体的に>

- ・ 症例検討と講演の両方を聞くことができよかったです。
- ・ 講演やかなり具体的な評価・訓練方法、VF の見方、おすすめの物品など聞くことができ、臨床に直結した内容でとても参考になりました。また嚥下障害に携わる他職種とのチームアプローチの大切さを改めて感じる事ができた。

<研修会の感想>

- ・ 評価の仕方や多くのアプローチ・訓練についての話があり、分かりやすかった。
- ・ 講演では、さまざまな疾患の症例紹介があり、それぞれの障害に応じた訓練法を学ぶことができ、役立つ情報が盛りだくさんでありよかった。
- ・ レジュメがよくまとめられていて、臨床の参考になる。
- ・ スクリーニングをしっかりと行うことでその後の V F や訓練内容を立てやすくなることを改めて考えさせられました。脳神経機能の評価の重要性も確認できた。
- ・ 症例発表では、チームアプローチや脳幹部病変症例について、参考にさせていただく部分がありました。臨床でみる方であったため、確認や新しい情報が得られた。

<情報交換会>

- ・ 参加者からの質問（食形態の選び方、他職種との連携の取り方、順序立った検査の進め方など）について、大塚先生より丁寧な回答をいただき、講演と併せて大変参考になった。

<今後の研修会・県士会についての意見>

- ・ 在宅に戻られた方への関わり方、口腔ケア、訪問リハビリの展開、心理的アプローチ、神経難病者の Dysarthria アプローチを知りたい。また、失語症や嚥下障害に対する他職種とのチームアプローチを聞きたい。

事務局より <研修会を終えて>

小児では、中等度聴覚障害児へのアプローチの難しさや大切さ、また、訓練者が変化することで、症例も変化するという大事なことを再認識しました。学校における発達障害児への対応の提案があり、学校での支援で大事なことが助言者から説明されました。言語聴覚士と教員の参加人数が同数で活発な意見交換がありました。

成人では、第2回研修会で講演していただいた大塚先生を助言者に迎え症例検討と講演会を行いました。障害に応じた摂食嚥下の具体的な訓練法や評価の方法を学べた研修会でした。会員の皆様からの要望の多かった摂食嚥下の研修会でしたが、県外からの出席者も多く皆様の関心の高さを改めて感じた研修会でもありました。

皆様の職場での明日からの取り組みの一助になれるよう願っております。

3．次年度研修会の症例発表者募集

次年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページ、事務所へのFAX、郵送でお知らせください。

4．研修会ビデオの貸し出しと資料の送付

1) ビデオの貸し出し

これまでに実施した研修会のビデオを貸し出しています。下記の要領でお申し込みください。

方 法：返信用封筒（B5またはA4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

国立精神・神経センター国府台病院 四方田 博英

貸し出しビデオ：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

最近の研修会ビデオは「脳神経疾患患者の摂食・嚥下リハビリテーションの実際～脳梗塞やくも膜下出血、神経難病の在宅患者様の評価の仕方やアプローチの流れ～」、「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「STが語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」、「頸部聴診法による摂食・嚥下の診断」です。

貸出期間：1ヶ月

貸し出しについての注意

ビデオの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープの代金を弁償していただきます。

2) 資料の送付

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

なお、最近の資料は、「脳神経疾患患者の摂食・嚥下リハビリテーションの実際～脳梗塞やくも膜下出血、神経難病の在宅患者様の評価の仕方やアプローチの流れ～」、「学習障害児への指導再考」、「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「STが語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」です。

5. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「地域勉強会」及び「小児多職種合同勉強会」をご参照の上ご参加ください。また、ホームページではこの情報について随時更新を行っていますので、ぜひご利用ください。

小児の分野では、これまで、病院勤務の言語聴覚士、学校現場の言語聴覚士、養護教員など、立場が違ふと共通の子どもたちの成長に携わっていても、なかなかお互いにコミュニケーションがとれないという声がたくさん寄せられていました。そこで「小児多職種合同勉強会」を県内5地域に発足させ、さらに発展させようとしています。ご活用ください。

特集：私の地域勉強会

県内各地で行われている勉強会を順番に紹介しています。今回は、「東葛特別支援教育研究会」です。

東葛特別支援教育研究会

この会の目的は

- ・言語障害、発達障害を持つ児童の言語を含む様々な特徴の理解
- ・よりよい検査解釈
- ・特徴を理解した上での現実的、具体的なゴール、方針の立て方
- ・効果的な指導法

を学び、それぞれの現場で生かしていくということです。講師に上智大学の小林マヤ先生をお招きし、全8回の計画で2007年1月にスタートしました。講師の小林先生は研修会の目的として、対処法・アプローチだけを知ればいいというのは危険、児童の現在の状況・能力を客観的に判断、児童の学習の「くせ」をとらえる、その児童特有のゴールをたてる、その児童の能力を最大限に伸ばす指導、何となくやっている指導からの脱却。以上の6点を掲げ、ことばの基礎・理解・表出・検査・評価の仕方から大変ていねいに、根気強く、ご指導くださり、講義の後に事例報告や相談なども行っています。

参加者は学生、相談機関のST、カウンセラー、特別支援教室の担任、ことばの教室の担任等、遠くは横浜からの参加の方もおります。約1年半にわたっての小林マヤ先生の講義も残すところあと2回だけとなりました。

第7回『特別支援を必要とする児童の学習態度の検査・評価の仕方』

日時 4月12日(土) 10時～12時 場所 鎌ヶ谷市中央公民館 学習室3

参加費 1,000円(学生500円)

第8回『特別支援を必要とする児童の学級におけるゴールとは』

6月予定 時間、場所、参加費は7回目と同じ。通常学級の担任大歓迎。

たくさんの方のご参加お待ちしております。

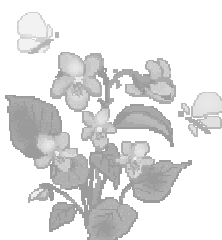
参加申し込み・問い合わせは、ホームページのメール

<http://www.geocities.jp/tokatsugengo/>

または、ファックスで 松戸市立六実小学校 山田 まで

FAX 047-389-0703

(松戸市立六実小学校 山田 幸)



委員会から

特別支援教育委員会

教育現場での言語聴覚士の役割や課題

現在、千葉県では特別非常勤講師や巡回サポーター等（前回ニュース参照）で教育現場で働いている言語聴覚士が5名います。特別支援教育委員会では、その方々と教育現場での言語聴覚士の役割や課題を検討し、行政への働きかけ、バックアップ体制の確立、スキルの向上、小児の実習の充実、の課題を見出しました。

教育現場で言語聴覚士を一層活用していただけるよう、皆様のご参加、ご協力をお願い申し上げます。

新生児聴覚スクリーニング委員会

新生児聴覚スクリーニング委員会は、聴覚障害児の支援体制の向上を目的に、活動を行っております。具体的な活動として、一つは、千葉県における新生児聴覚スクリーニング検査の実施状況の実態調査を行う。二つは、関係機関及び関連職種との連携及び情報交換会の実施です。実態調査実施にあたり、新生児聴覚スクリーニング検査の手引きに掲載されている精査機関（7医療機関）及び療育・教育機関（4機関）にアンケートを依頼しました。1月末にアンケートの回収作業を終了し、まとめの作業をしている段階です。

今年度の委員会活動のまとめとして、新生児聴覚スクリーニング検査の意義を高め、聴覚障害児とその保護者にとっての、よりよい支援体制づくりをするための提言ができるよう、委員会の各委員は努力しております。

作業部会から

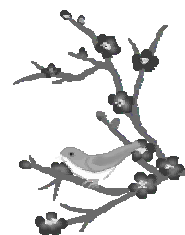
リハビリテーション公開講座作業部会

第2回 リハビリテーション公開講座開催決定のお知らせ

千葉県理学療法士会・千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会主催、千葉県リハビリテーション医学懇話会協賛による「第2回リハビリテーション公開講座」の開催が決定しました。

今回は「脳卒中のリハビリテーション」について医療、PT、OT、STがそれぞれの側面から脳卒中のリハビリテーションをわかりやすくお伝えします。一般の方の個人相談や高校生等の進路相談のコーナーも設けます。是非ご参加下さい。

日時 平成20年10月11日（土） 13:00～17:00
会場 美浜文化センター メインホール（JR京葉線 検見川浜駅 徒歩8分）
テーマ 「脳卒中のリハビリテーション」 個別相談等も予定しております。



施設紹介

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 S T 野島 洋子

言語聴覚士との言語・コミュニケーションの取り組み

千葉県立袖ヶ浦特別支援学校は、身体に障害のある児童生徒、千葉県こども病院に入院している児童生徒を対象に、小学部から高等部までの12年間の教育を行っている学校です。

隣接する千葉県千葉リハビリテーションセンター（以下リハビリテーションセンターと記する）千葉県こども病院と連携し、医療・福祉・教育といった総合的なサービスの一翼を担う学校としての特色があります。

児童生徒は家庭からの通学生、寄宿舎生、リハビリテーションセンター内の愛育園・養育園からの通学生、及び養育園の床上学級生、訪問学級生、こども病院の院内学級生により構成されています。

児童生徒一人一人の心身の発達と障害に応じたきめ細かな教育を通して、全人的な発達を促すとともに、可能性を最大限に伸ばし、自立的に生き抜く力の育成をめざしています。

児童生徒の実態に応じて、教科の指導、教科・領域を合わせた指導（あそび・生活単元学習・作業学習など）、日常生活の指導、健康の保持や心の安定、身体の動き、ことば・コミュニケーションに関する指導などを行っています。

言語聴覚士とのかかわりは、本校教員がリハビリテーションセンターの言語聴覚士に言語訓練を受けている児童生徒の訓練見学を行い、訓練の様子の把握と言語聴覚士との話し合いで得たことを教育実践の場に生かしています。

また、平成16年度～18年度の3年間リハビリテーションセンターの行った「発達障害児のコミュニケーション支援とAACの適応効果事業」の調査研究の一環としてリハビリテーションセンターの言語聴覚士が来校し、児童生徒の言語・コミュニケーションの指導及び教員への助言を行いました。

具体的には、**16年度** 言語聴覚士が週2回来校し、授業観察、ビデオ撮影による記録、学級担任などとのケース会議を行いました。

4～6月には、対象児童生徒を10名選び、事例のS-S法と観察による実態把握と指導計画の作成を行いました。

その後は、指導計画に基づいた指導を言語聴覚士と相談しながら教員が行いました。

2～3月には、事例のまとめのケース会議を行い

3月には全校の教員を対象に取り組みのまとめの報告会を行いました。

17年度 前年度の対象児童生徒を引き続き言語聴覚士と連携をして指導を行いました。年度始めにその年度の言語コミュニケーションに関する年間指導計画を立案し、前年度と同じような形での取り組みが行われました。

18年度 言語聴覚士の来校は週1回での実践が行われました。

言語聴覚士が本校の教育にかかわることで、次の効果がありました。

児童生徒の言語・コミュニケーション力が伸び、コミュニケーション意欲の向上や、よりきめ細かなコミュニケーションができるようになりました。

教員の言語・コミュニケーションに関する実態把握の方法の習得と指導計画、指導に関する理解と技術が深まり、より質の高い指導を行えるようになりました。

本校では、平成20年度は理学療法士や言語聴覚士などが年間9回以内で来校できる特別非常勤講師配置事業で、言語・コミュニケーションに関する児童生徒の指導及び教員への助言に当たる言語聴覚士の活用を検討しています。

臨床こぼれ話

ご両親にできること、STにできること、社会にできること

一年半ほど前から、ことばと発達の相談室に2か月に1回いらっしやっている、4歳の広汎性発達障害のお子さんとのつい先日のできごとです。ご両親は共働きですが、このお子さんは保育園や療育施設には通っていないため、毎日自宅で祖母と過ごしています。初めてお会いしたときから、療育施設、幼稚園、保育園などのご利用をお勧めしていたのですが、お母様からははっきりとした返事は得られず、何となくうやむやにしたまま一年半を過ごしていました。年度末が近づいてきたこともあり、この4月からでも何とかしてお子さんが集団生活を経験できたらと思い、再度お勧めしました。しかし、やはりいいお返事はいただけませんでした。ただ、お子さんを集団へ入れない理由をお母様が初めて話してくださったのです。「いじめられるかもしれないから」というのも一つの理由でした。でも、最大の理由は違いました。

「お金と時間をかけて療育施設や幼稚園、保育園に通っても、この子が自立して生活できるようになるとは思えない。今、自分たちにできることはできる限り働いて貯金し、子どものために残せるものを残すことだと思う」

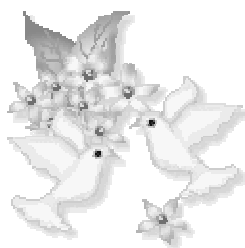
これはご両親の子どもに対する深い愛情なのかもしれない。親の愛情とはどんなものなのだろう？私はSTとして、このお子さんの将来の生活までも見据えて指導をしていたらどうか？私がやるべきこととは果たして何なのだろうか？いろいろな気持ちが頭を駆け巡りました。

これまで、相談室ではこのお子さんの言語面、特に発語を伸ばしていくために、S-S法やらマカトン法やらできる限りの指導を行い、不明瞭ながらもやっと発語が見られ始めていたところでした。しかし、私はこの指導がこのお子さんの将来の生活の自立につながるかどうかまでは考えたことはありませんでした。STとして、幼児期のほんの短い間しか関わることができない私がお子さんの将来を保証することはできませんし、自立した生活へ導くことも困難です。それでも、お金（交通費程度ですが）と時間をかけて（仕事を休んで）相談室に来たことを、お子さんにとって「プラスだった」と、将来ご両親に思っていただけののだろうか・・・、この日から考え続けています。

発達障害のお子さんが療育施設やさまざまな指導機関に通うことが、そのお子さんにとってベストの方法であると信じて疑いませんでした。ご両親もきっとそれがベストの方法であると知っているのでしょう。しかし、お子さんの将来を思うからこそ、ご両親はベストを捨ててベターな方法を選択しなければならないときがあるのかもしれない。

現在の日本において、中等度、または重度の発達障害者が自立して生活することは困難であるのが事実なのかもしれません。身体障害者や高齢者などに対するバリアフリーは街の至る所で進められていますが、就業などにおいてはまだまだバリアフリーとはいえない状況もあるのでしょう。発達障害者に対することばや心のバリアフリーは、更に遅れているのではと思うことが多くあります。いつの日か、できれば近い将来に、発達障害児・者のご両親や家族が、時間もお金も気にしないで迷わずベストの方法を選択できる日本の社会が来ることを願わずにはられません。私たちSTが社会に働きかけていくことも、STとしてできることのひとつなのかもしれないと思い始めています。

佐倉市健康増進課 北見 佳代



理事会・委員会報告

平成19年度 理事会

第9回

日時：2007年11月4日（日）9：03～9：55 場所：千葉市黒砂公民館 講習室

出席者：宇野、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、笹本、山口、山本（以上理事7名）

野島、秋山、藤田（県民公開講座作業部会） 三原（書記）

1．協議事項

（事務局より）・新入会員 ・第8回理事会議事録 ・県士会ニュース第25号構成案

（学術局より）・第4回研修会計画

（県民公開講座作業部会より）・次年度の方向

2．報告事項

（事務局より）・到着郵送物

（新生児聴覚スクリーニング検討委員会より）・第4回議事録 ・アンケート

（リハビリテーション公開講座運営委員会より）・第2回議事録

（県民公開講座作業部会より）・第3回議事録 ・第2回県民公開講座反省

第10回

日時：2007年12月16日（土）9：32～12：21 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：宇野、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、笹本、畠山、山口（以上理事7名）

竹中（監事） 岡田（新生児スクリーニング検討委員長） 酒井（書記）

1．協議事項

（事務局より）・新入会員等 ・第9回理事会議事録 ・平成20年度公開講座の方向性

・助成金を含む来年度予算の検討 ・県士会ニュース第26号構成案 ・ニュースの広告の資格

・研修会場における商品展示と販売 ・平成19年度中間決算報告 ・来年度予算

（学術局より）・第1回研修会の講演会の講師

（社会局より）・ミニタウンミーティング総括 ・年賀状 ・求人の件

（組織検討委員会より）・県士会の組織改編に関する提案

（新生児スクリーニング検討委員会より）・新生児スクリーニング実態調査アンケート

（リハビリテーション公開講座作業部会より）・運営委員会形式の検討

（生涯学習プログラム基礎講座作業部会より）・第1回生涯学習プログラム基礎講座反省

2．報告事項

（事務局より）・到着郵送物等 ・第9回日本言語聴覚士会都道府県士会協議会報告

（学術局より）・第3回議事録 ・第3回研修会反省

（実態調査委員会より）・平成19年度実態調査委員会報告

（特別支援教育委員会より）・第5回議事録

・第1回教育にかかわる言語聴覚士と特別支援教育委員との情報交換会議事録

（生涯学習プログラム基礎講座作業部会より）・第2回、第3回議事録



平成19年度 学術局

第3回

日時：2007年11月11日（日）

＜小児＞ 12：00～14：00 場所：千葉市療育センター3階ロビー

＜成人＞ 17：00～19：00 場所：デニーズ稲毛海岸店

出席者：木下、笹本、長岐、野島、宮下（委任状出席）羽山、前里、寄本（以上小児8名）

大浦、大足、神作、田野、野島、山口（委任状出席）日下、前田、四方田（以上成人9名）

（以上局員14名、理事2名）

・第3回研修会反省 ・第4回研修会計画 ・ニュース原稿作成手続き ・ニュース同封物

第4回

日時：2007年12月16日（日）14：00～16：30 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：大足、神作、木下、日下、笹本、田野、長岐、野島、前田、宮下、山口

（委任状出席）大浦、羽山、前里、四方田、寄本（以上局員14名、理事2名）

・第3回研修会反省、検討事項 ・研修会アンケート集計分析 ・平成19年度反省、次年度研修計画

・第4回研修会計画

平成19年度 特別支援教育委員会

第5回

日時：2007年11月18日（日）12：00～15：00 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：太田、古森、高畑、野島、長谷川、宮本（委任状出席）和泉澤（以上7名）

・ニュース原稿 ・県教育委員会訪問計画 ・平成20年度活動の方向 ・多職種合同勉強会

・発達障害リーフレット

第6回

日時：2007年12月16日（日）12：00～13：00 場所：千葉大学医学部附属病院 言語訓練室

出席者：和泉澤、太田、古森、高畑、野島、長谷川、宮本（以上7名）

・平成19年度反省 ・平成20年度計画案 ・発達障害パンフレット配布

平成19年度 組織検討委員会

第3回

日時：2007年12月2日（日）9：10～10：30 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：吉田、鎗田、山本（以上3名）

・日本言語聴覚士協会と都道府県士会との関係 ・県士会の内部組織検討

平成19年度 生涯学習プログラム基礎講座作業部会

第2回

日時：2007年11月25日（日）16：30～17：30 場所：千葉市民会館

出席者：岡松、松本、山口（委任状出席）塘（以上4名）

野島、宇野

・11月25日基礎講座延べ受講者数及び会計 ・11月25日基礎講座反省

第3回

日時：2007年12月9日（日）17：00～19：00 場所：千葉市民会館

出席者：岡松、塘、松本、山口（以上4名）

・12月9日基礎講座延べ受講者数及び会計 ・12月9日基礎講座反省 ・平成20年度実施計画

第4回

日時：2007年12月16日（日）17：00～20：30 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：岡松、塘、松本、山口（以上4名）

・平成20年度基礎講座千葉県版実施計画案 ・平成19年度基礎講座千葉県版実施会計
・専門講座千葉県版実施の検討

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

事務局から

事務局が移転しました

平成19年5月より当会の事務局が下記の場所に移転となりました。

住所：〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

（最寄り駅 京成線みどり台駅またはJR総武線西千葉駅）

TEL/FAX：043-243-2524 E-mail：chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：<http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

各種申請種類の送付や問い合わせ先になります。お間違えのないようお願いいたします。

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げておりますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 年会費納入のお願い

平成20年度分の年会費のお支払いにつきよろしくお願いいたします。現金にての受付は総会開催日のみとなっております。年会費の納入はなるべく郵便振替をご利用いただきますようご協力をお願いいたします。（振替先：ゆうちょ銀行 00120-6-39932 千葉県言語聴覚士会）

また、平成19年度分の年会費をまだお支払いでない方は、至急お振込みくださいますよう、お願いいたします。本会の会則により、2年以上会費未納の場合、退会とみなされますのでご注意ください。

3. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

4. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

5. 新入会員のお知らせ（敬称略）

| |
|---|
| 会員数：正会員 295 名・会友 47 名・賛助会員：6 団体 + 1 名 （平成 20 年 1 月 6 日 理事会承認分まで） |
|---|

…正会員…

山口 未来(津田沼中央総合病院)

清水 陽子(塩田病院附属福島孝徳記念クリニック)

樋田 理奈(塩田病院附属福島孝徳記念クリニック)

…会友…

向山 瑞恵(初台リハビリテーション病院)



編集後記：木々の芽も膨らみ始め確実に春が近づいています。3月は別れと出会いの季節ですが、4月からのスタートに向けて新たなチャレンジをしてみませんか。先日の春一番の風と砂埃には驚きました。アレルギーの会員・会友の皆様は大丈夫でしたか。

事務局

〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX：043-243-2524

E-mail：chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：http://chibakenshikai.moo.jp/ 会員専用パスワード：affordance

..... 求人情報

詳細は千葉県言語聴覚士会ホームページをご覧ください。 (2008年2月29日現在)

医療法人沖縄徳洲会 千葉徳洲会病院

募集：言語聴覚士 常勤 2～3名(経験者希望。新卒可)

内容：成人(失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等) 小児(言語発達遅滞等)

〒274-8503 船橋市習志野台1-27-1

電話：047-466-7111

担当：事務長 新井

リハビリテーション科 PT木下、ST綾野

四街道市役所

募集：言語聴覚士 非常勤 有資格者(小児経験者希望)

内容：就学前児のことばと聞こえの個別相談

〒285-8555 四街道市鹿渡無番地

四街道市役所健康増進課

電話：043-421-6100 担当：宮内

医療法人社団永生会 永生病院

募集：言語聴覚士 常勤(経験者優遇)

内容：成人の言語障害、摂食・嚥下障害等の臨床

〒193-0942 東京都八王子市梶田町583-15

電話：042-661-4108(代表)

担当：リハビリテーション部 下平、東川

医療法人社団ますお会 柏の葉北総病院

募集：言語聴覚士 常勤 若干名(新卒者・既卒者問わず)

内容：成人の言語障害(失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害等)

〒270-0113 流山市駒木台233-4

電話：04-7155-5551 担当：総務課人事採用担当

我孫子市つくし野病院

募集：言語聴覚士 非常勤 1名

内容：デイケア個別言語訓練、外来・入院成人言語訓練(失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等)

〒270-1164 我孫子市つくし野131-1

電話：04-7184-2211 担当：事務長 飯田

千葉新都市ラーバンクリニック

募集：言語聴覚士 非常勤 1名(経験者希望)

内容：主に成人対象の言語リハビリテーション(失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害等)

〒270-1337 印西市草深138

電話：0476-40-7711 担当：総務 安藤

医療法人社団 葵会

介護老人保健施設 葵の園・はまの

募集：言語聴覚士 常勤または非常勤(パート)

内容：入所者、通所者の失語症・嚥下障害等の機能訓練

千葉市中央区浜野町423番地1 電話：043-209-7117

担当：事務長 増田

医療法人社団 上総会 山之内病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名

内容：成人(失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害)

〒297-0022 茂原市町保3番地

電話：0475-25-1131

担当：リハビリテーション課 ST小野

医療法人財団 東京勤労者医療会 東葛病院

募集：言語聴覚士 常勤 若干名（既卒、新卒問わず）
内容：成人対象の言語リハビリテーション（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等）
〒270 - 0174 流山市下花輪 409
電話：04 - 7158 - 8710（直通）
担当：リハビリテーション室 課長加川（かがわ）

塩田病院

募集：言語聴覚士 常勤（新卒者、経験者（5年位まで））
内容：成人（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害）
〒299 - 5235 勝浦市出水 1221 電話：0470 - 73 - 1221
担当：リハビリテーション科 ST 斉藤

守谷市こども療育教室

募集：言語聴覚士 非常勤（経験者希望）
内容：発達に何らかの問題を有する乳幼児及び学齢児の言語訓練、相談等
〒302 - 0101 茨城県守谷市板戸井 1977 - 2
電話：0297 - 47 - 0220 担当：奥岡

医療法人 緑友会 らいおんクリニック

募集：言語聴覚士 常勤 1名（非常勤も応相談）
内容：リハビリテーション科クリニック（外来のみ）、デイケア、デイサービス、訪問リハビリテーションにおける言語療法。対象は失語症、構音障害、摂食・嚥下障害、高次脳機能障害等
〒272 - 0133 市川市行徳駅前 4 - 2 - 6
電話：047 - 306 - 7778 担当：リハビリ統括部長 沼田

介護老人保健施設 睦沢の里

募集：言語聴覚士 1日/週での非常勤
内容：入所者及び通所者への言語訓練とその他
長生郡睦沢町大上 1150 番地
電話：0475 - 43 - 1222 担当：本間、石上

医療法人沖縄徳洲会 四街道徳洲会病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名（経験者希望。新卒も可）
内容：成人（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等）
〒284 - 0032 四街道市吉岡 1830 - 1
電話：043 - 214 - 0111
担当：総務 迫田事務長、リハビリテーション科 PT 鈴木

医療法人沖縄徳洲会 介護老人保健施設

松戸徳洲苑

募集：言語聴覚士 常勤または非常勤 1名（経験者を希望。新卒者も可）
内容：成人（失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等）
〒270 - 0001 松戸市幸田 180 - 1
電話：047 - 309 - 7172（代表）
担当：総務 事務長 石川

たむら記念病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名
〒288 - 0815 銚子市三崎町 2 - 2609 - 1
電話：0479 - 25 - 1800（直通） 担当：藤後、大久保

茂原中央病院

募集：言語聴覚士 常勤 1名
内容：入院・外来診療（回復期から維持期）
〒297 - 0035 茂原市下永吉 796
電話：0475 - 24 - 1191
担当：リハビリテーション科 篠原

医療法人社団愛友会 ナーシングプラザ流山

募集：言語聴覚士 常勤 1名
内容：介護老人保健施設での機能訓練
〒270 - 0144 流山市前ヶ崎 248 - 1
電話：04 - 7145 - 0111
担当：事務部 秋谷、リハビリテーション科 後藤

